

JFM だより

vol. 23

INDEX

- 01 融資の実
- 05 がんばる公営競技
- 07 自治体ファイナンスよもやま話
- 09 地方支援ダイアリー
- 11 金融ひとくちメモ
- 13 人事交流日記&ふるさと紹介
- 15 第100回地方公共団体金融機構
債券の発行にあたって
- 15 私たちもJFM債買ってます!

[JFMとは、**J**apan **F**inance Organization for **M**unicipalities の略称です。]


Feature

青森県弘前市 弘前市立裾野小学校



地方公共団体金融機構
Japan Finance Organization for Municipalities



融資の実  機構の融資が、どのように活かされているかをご紹介します。

Feature 青森県弘前市 弘前市立裾野小学校

統合によって新たな一歩を踏み出した小学校 誰もが誇りに思える学校づくりを目指して



▲裾野小学校キャラクター「うりっち」

平成28年4月に開校した弘前市立裾野小学校は、
地域の人々に親しまれてきた歴史ある2校が統合されて生まれた新設校です。
地域と保護者、教職員がスクラムを組み、
地域活性化の拠点となる学校づくりに取り組んでいます。

複式学級の解消に向けて2校を統合

弘前市立裾野小学校は、平成28年4月に、修斉小学校・草薙小学校の統合により開校した新設校で、青森県弘前市の北部、岩木山の麓に位置する十面沢(とつらざわ)にあります。統合された2校はどちらも明治初期の創立という歴史のある小学校でしたが、周辺地域の過疎化とともに児童数が減少していました。

「当時弘前市では、学校規模適正化の基本方針として、小・中学校における複式学級の速やかな解消を掲げていました。両校とも児童数が減少し、複式学級という状況で、さらに校舎の耐震・老朽化対策が必要という課題もありました。そこで弘前市教育委員会では地元の方たちと話し合いを重ね、平成24年に両校の中間地点である裾野地区に統合・新設校を開校することで合意が得られたのです。」(弘前市教育委員会・齋藤佳太主事)

平成25年には、両校の保護者や地域の方たちが参加する「弘前市立修斉小学校・草薙小学校統合推進協議会」が発足しました。協議会での話し合いや児童・保護者へのアンケートの実施など、様々な人たちの意見を聞きながら、校名・校章・校歌や施設の設計、スクールバスの運行、通学路の整備などの具体的な検討を進めました。校章は、地域の特産であるりんごの花びらからヒントを得ており、児童たちから寄せられたアイデアを元に弘前市教育委員会教育長がデザインしています。

平成26年には、新しい校舎の建設工事が始まりました。弘前市では、既存公共施設の集約化事業となるこの新設校の建設財源の一部に、公共施設最適化事業債(現:公共施設等適正管理推進事業債)を活用しています。



▲グラウンド全景



▲トイレ目隠し(ブロック側面には修斉草薙児童の手書きメッセージが)



▲体育館



▲グラウンドは100m走の直線コースがとれる広さ

木の香りが漂う温もりある校舎

新しい一歩を踏み出した裾野小学校の校舎は、鉄筋コンクリート造の2階建、総床面積2,891m²という広さです。そこで71人(平成29年5月現在)の児童が学んでいます。

校舎は、床や壁、間仕切などに木の素材をふんだんに使用することで木質化しており、校舎に一歩足を踏み入ると、温もりのある木の香りが漂います。1・2階ともに可動式間仕切を導入したオープン教室となっており、ゆとりをもって学べる空間を実現しています。

「2階建の構造や校内の木質化は、協議会などから寄せられた意見を反映させたものです。また、教室の配置など教職員の声も随所に活かしています。弘前市の新設小学校のスタンダードとなるような、充実した校舎を実現できたと思います。」(齋藤主事)

グラウンドも、100m走の直線コースがとれるほど広々としています。校舎からは一段低くなった構造となっており、それを利用して、冬期の体育授業に使うスキー山を設けるなど、造成にも工夫を凝らしています。



融資の実 **日本一のりんごと桜で知られるまち弘前市**



▲弘前のりんご

弘前市は、青森県の西南部、広大な津軽平野の南部に位置しています。古くは津軽十萬石の城下町として栄え、以来約400年にわたって津軽地方の政治・経済・文化の中心として栄えてきました。人口では青森市、八戸市に続く第3の市となっています。また、国立大学である弘前大学をはじめ4つの大学、2つの短大、9つの高校が集まり、学園都市という面も併せ持っています。

自然にも恵まれ、西には青森県最高峰の岩木山、南には世界遺産の白神山地を



▲可動式間仕切によるオープン教室



▲▶「よさこいソーラン」

臨み、平野部には県内最大流域面積を有する岩木川が流れています。その流域に広がる津軽平野は県内屈指の穀倉地帯であり、丘陵地帯で作られる「弘前りんご」は日本一の生産量を誇っており、シェアは全国の約2割を占めています。

りんごとともに日本一として知られるのが弘前公園の桜です。毎年春には「さくらまつり」が開催され、平成29年には約251万人が訪れました。夏には勇壮華麗な「弘前ねぶたまつり」が催され、さらに秋の「弘前城

地域の誰もが「誇りに思える学校」を

「裾野小学校では、『近隣の裾野中学校と連携した小中一貫教育システムの推進』『地域に根ざしたコミュニティ・スクールの構築』の2つを大きな方針として掲げています。弘前市が進める『教育自立圏』の指定を受け、保護者や地域の人たちと一体となった学校づくりを進めています。」(弘前市立裾野小学校・小山内剛校長)

徒歩で5分ほどの距離にある裾野中学校とは、すでに様々な連携を進めています。平成29年5月に行われた教育自立圏「裾野学園」として初めての小中合同運動会では、児童・生徒が一緒になって練習を重ね、「よさこいソーラン」の踊りを披露しました。また、地元の方の指導の下、地域の伝統文化である凧揚げの復活に取り組むなど、古くから伝わる文化の継承にも努めています。

「これからも中学校や地域との連携を深め、裾野小学校を地域活性化の拠点にしていきたいと思っています。地域・児童・保護者・教職員すべてが『誇りに思える学校』とすることが私たちの目標です。」(小山内校長)



▲木のぬくもりあふれる校内



弘前市立裾野小学校・小山内剛校長(左)
弘前市教育委員会・齋藤佳太主事(右)

菊と紅葉まつり」、冬の「弘前城雪燈籠まつり」と、観光都市として1年を通じて賑わっています。

市の中心部には、弘前城をはじめとする神社仏閣、武家屋敷が点在し城下町としての風情が漂います。また、明治・大正期に建てられた洋館も随所に保存されており、その存在が街並に独特のアクセントを与えています。最近では街歩き観光のスポットとしても注目され、若い人たちも多く訪れています。



▲弘前のさくら

青森県弘前市

人口:174,507人(平成29年7月1日現在)

世帯数:71,681世帯(平成29年7月1日現在)

面積:524.12km²



▲弘前ねぶたまつり

弘前市